

# 造園学会 COP10 学生会議活動報告

2010年9月  
日本造園学会

## 1. 造園学会 COP10 学生会議とは

造園学会 COP10 学生会議は、COP10 に対する学生の参加を、造園学会を通じて促すことにより、教育面での効果、学会へ社会参加を期待し、学会としても若手の活動の活性化に寄与することを目的としています。そして、造園学を基盤とする幅広い分野で学ぶ全国の学生が協力しながら、これからの生物多様性の保全に向けた具体的な提案、行動を主体的に行います。また、5人のコアメンバーが環境省主催による「生物多様性国際ユース会議 in 愛知 2010」に参加し、国内外の青年との交流を深めます。なお、造園学会 COP10 学生会議の活動の支援は、主に大学の若手教員により組織される COP10 学生支援委員会が行います。

## 2. 活動内容

- ①生物多様性の保全に関する議論、造園学会学生提案のまとめ（論点：生物多様性の損失速度を減少させるには、ポスト 2010 年目標のあり方など）
- ②COP10 に向けた学生会議によるサイドイベントの企画、実施（生物多様性交流フェアへの参加）
- ③生物多様性年を契機とした継続的な活動

## 3. 活動スケジュール

### 2010年

- 4月下旬-5月上旬 生物多様性国際ユース会議（5人の学生コアメンバーが参加）
- 5月6日 環境省職員を招きキックオフミーティング
- 5月23日午後 全体ミーティング（造園学会全国大会：5月23日14時～名城大学 N237 会議室）
- 5月下旬 サイドイベントの申し込み
- 6～7月 地域ごとのミーティング、生物多様性に関わる国や自治体、企業の取り組み等の取材など
- 8月23～27日 生物多様性国際ユース会議（5人の学生コアメンバーが参加：愛知県）
- 9月5～7日 滋賀県琵琶湖西岸におけるワークショップ、学生提案のとりまとめ
- 10月22～29日 生物多様性交流フェアへの参加、展示（名古屋）
- 11月以降 提案を文書としてとりまとめ（適宜議論）

### 2011年

- 5月 造園学会全国大会にて成果報告会（未定）

## 4. 活動報告

### 4-1 キックオフミーティング内容

日時：2010年5月6日 19:00-21:00

場所：渋谷 造園学会事務局

参加者：19名（学生17名、教員1名、環境省1名）＋ネット参加者

内容：学生がそれぞれ簡単な自己紹介を行った。続いて、環境省職員より、生物多様性とは？生物多様性にかかわる最近の動向、COP10 について、などに関して話題提供をいただき、その後質疑応答を

行った。

また、COP10 に関連したこうした活動を学生間で行ったり、交流を図っていくため慶応の学生が中心になって、学生の ML を立ち上げることになった。

記録：中継内容は以下のアーカイブとして保存

URL: <http://www.ustream.tv/channel/satoru36>

PASS: grasshopper

#### 4-2 全体会議

日時：2010年5月23日 14:10-15:50（造園学会全国大会開催期間）

場所：名城大学 N515 教室（名古屋）

参加者：学生 11 名、教員 9 名、環境省 2 名

内容：環境省職員より、COP10 イベント内容および応募方法について説明を受けた。そして、次回の全体会合は、京都大学の研究室が世話役となって 9 月に琵琶湖畔で実施することとなった。候補日程は 9/5-7（注：後に正式決定。場所は滋賀県大津市近江舞子）。学生会議の方向性として、学生からは、異分野を含め、学生間のネットワークを広げるためのよいきっかけとしたいという要望が強く寄せられた。学生会議が活動を行っていく中で、資金が必要となった場合には、学会へ支援を要請していく。また、造園学会として COP10 へのブース出展スペースを確保するとともに、学生会議の活動次第で、COP10 の造園学会ブースへ成果をインプット可能なようにしておくこととなった。

#### 4-3 滋賀県琵琶湖西岸におけるワークショップ

日時：2010年9月5～7日

場所：滋賀県湖西地域（大津市近江舞子）

参加者：学生 26 名、教員 6 名、地元住民・NPO メンバー 8 名

内容：造園や生物多様性に興味をもつ学生や教員の交流を深めるとともに、造園学会 COP10 学生会議として予定している生物多様性交流フェア（出展期間 10 月 23-29 日）の参加内容について、学生間の議論を深めた。具体的には、まず、専門家、住民、NPO メンバーを招いての講演「滋賀県における生物多様性と自然再生」や座談会「身近な環境からみた生物多様性～湖西の事例から」を通し、身近な環境、生活の視点から生物多様性について議論した。そして、滋賀県の湖西地域をフィールドに調査研究を進めている京都大学の教員や学生の案内によるフィールドトリップを、内湖班（近江舞子）、琵琶湖と河川班（和邇）、集落と里山林班（守山）、水田と水路班（針江）に分かれて実施した。行政のからの参加として、滋賀県自然環境保全課職員による「滋賀県における自然環境施策」と題した講演もあった。COP10 に向けた話し合いでは、「BI 和 CO-琵琶湖 2100-」をキーワードにアウトプットの形態、役割分担やタイムスケジュール等が決定された。



講演会



食文化と生物多様性

フィールドトリップ



班ごとの取りまとめ

## 5. 今後の活動予定

### 5-1 生物多様性交流フェアの参加内容

参加期間：2010年10月22～29日

場所：COP10会場隣接「白鳥地区」（名古屋）

出展者名：造園学会 COP10 学生会議（JILA COP10 Student Council）

出展内容：身近な地域における生物多様性の保全に向けた取り組み、研究成果をまとめ展示・発表し、生物多様性の保全のあり方を提案する。（Proposing a model of biodiversity conservation in Japan based on summaries of local activities and research results.）

## 6. 体制

### 6-1 造園学会 COP10 学生会議コアメンバー

慶應義塾大学3名：板川暢（M1）、佐々木恵子（4年、ユース会議参加）、樋口陽平（1年）

東京農業大学1名：鈴木光（ユース会議参加）

東京大学1名：松葉史紗子（M2、ユース会議参加）

京都大学4名：上原翔吾（M1、ユース会議参加）、西村大志（4年、ユース会議参加）、藤馬裕一（4年）、内藤梨沙（D2）

### 6-2 COP10 学生支援委員会メンバー

委員長：深町加津枝（京都大学）

幹事：山田晋（東京大学）

委員：上田裕文（札幌市立大学）、一ノ瀬友博（慶應義塾大学）、荒井歩（東京農業大学）、高橋輝昌（千葉大学）、菊池佐智子（明治大学）、黒田貴綱（日本大学）、大石善隆（信州大学）、加我宏之（大阪府立大学）、大藪崇司（兵庫県立大学）、渡辺貴史（長崎大学）